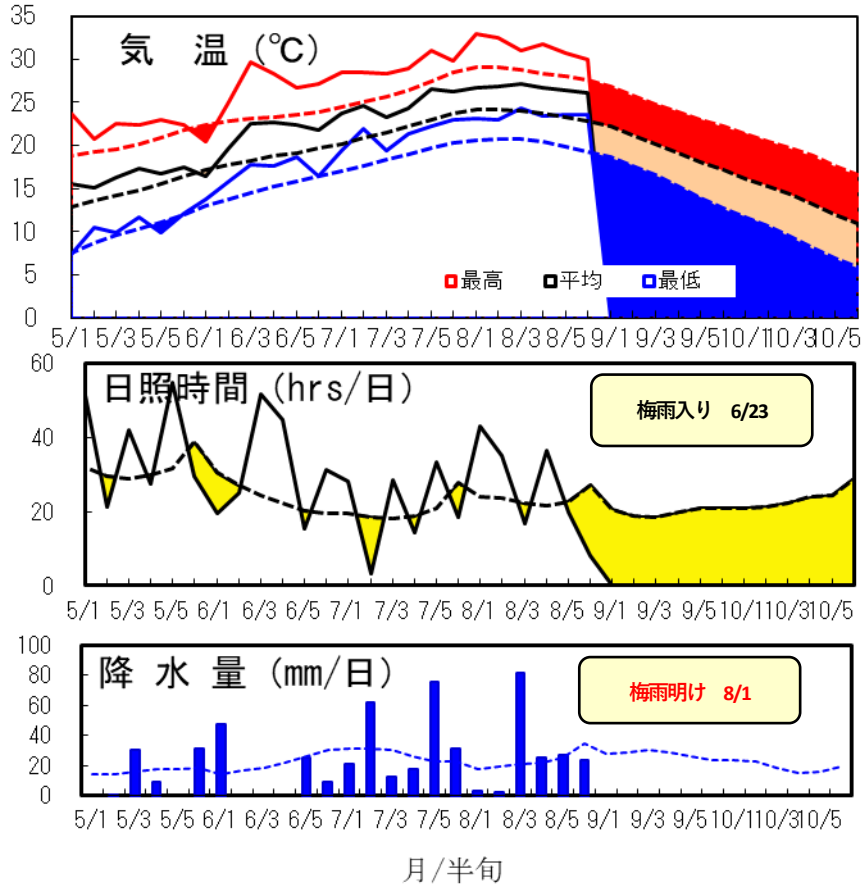


～ 大豆の開花期は 平年並みからやや早い ～

～害虫の発生は多い傾向 9月上旬の適期防除を！～

## 1 気象経過



### ◆8月29日発表 東北地方の1か月予報(8月31日～9月30日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・ 天気は、東北太平洋側では数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- ・ 向こう1か月の気温は、東北太平洋側では高い確率70%、平年並みの確立20%、低い確率10%。
- ・ 降水量は、多い若しくは平年並みの確率40%、少ない確率20%。
- ・ 日照時間は、多い若しくは少ない確率30%、平年並みの確率40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北日本海側	向こう1か月 08/31～09/30	10% (低) 20% (平) 70% (高)
		1週目 08/31～09/06	10% (低) 20% (平) 70% (高)
		2週目 09/07～09/13	20% (低) 40% (平) 40% (高)
		3～4週目 09/14～09/27	10% (低) 30% (平) 60% (高)
	東北太平洋側	向こう1か月 08/31～09/30	10% (低) 20% (平) 70% (高)
		1週目 08/31～09/06	10% (低) 10% (平) 80% (高)
		2週目 09/07～09/13	10% (低) 40% (平) 50% (高)
		3～4週目 09/14～09/27	10% (低) 30% (平) 60% (高)
降水量	東北地方	向こう1か月 08/31～09/30	20% (低) 40% (平) 40% (高)
日照時間	東北地方	向こう1か月 08/31～09/30	30% (低) 40% (平) 30% (高)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## 2 生育状況

### ① 5月25日播種

- ・ **タンレイの開花は、平年並みの7月23日であった。** 平年と比較して主茎長は長く前年よりは短い。主茎節数はやや多く、分枝数はやや少なく、総節数は平年並みであった。曇化（まんか）は見られなかった。
- ・ **ミヤギシロメの開花は平年より2日早い7月29日であった。** 平年と比較して主茎長は長く、主茎節数・分枝数・総節数は概ね平年並みであった。生育が旺盛であることから曇化が進行し、倒伏も見られた。

### ② 6月15日播種（ミヤギシロメ）

- ・ **開花は前年と同じ8月4日であった。** 主茎長は前年より短く、主茎節数は前年より少なく、分枝数・総節数は概ね前年並みであった。

### ③ 7月5日播種（タンレイ）

- ・ **開花は平年より1日早い8月11日であった。** 主茎長は平年より短く、主茎節数・分枝数・総節数はともに平年を下回っていた。

播種期	品種名	開花期（月/日）			主茎長(cm)		
		本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差
5/25 播種	タンレイ	7/23	5日遅い	±0日	92	-6	+13
	ミヤギシロメ	7/29	2日遅い	2日早い	133	+2	+20
6/15播種	ミヤギシロメ	8/4	±0日	-	88	-22	-
7/5播種	タンレイ	8/11	-	1日早い	40	-23	-6

◆作況試験ほにおける開花は概ね平年並みであったが、現地調査では高温傾向のため開花がやや早まっている。

播種期	品種名	主茎節数（節/本）			分枝数（本/本）			総節数（節/本）		
		本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差
5/25 播種	タンレイ	17.2	-0.3	+1.0	2.8	-2.3	-1.8	36	0	0
	ミヤギシロメ	18.2	-0.3	+0.4	4.3	+0.6	+0.2	45	-7	-2
6/15播種	ミヤギシロメ	14.9	-2.4	-	3.5	0.0	-	34	-1	-
7/5播種	タンレイ	9.0	-2.3	-1	0.2	+0.2	-0.8	9	-6	-4

注1) 平年差は過去5か年（R1～R5）の平均値との差

注2) 栽植密度は、5/25及び6/15播種が条間75cm×株間20cm、7/5播種が条間75cm×株間10cm（1株2粒播種）

注3) 6/15播種のミヤギシロメはR3年から調査を開始したので、平年値は無い。

(5/25 播種 タンレイ)

(5/25 播種 ミヤギシロメ)

(7/5 播種 タンレイ)

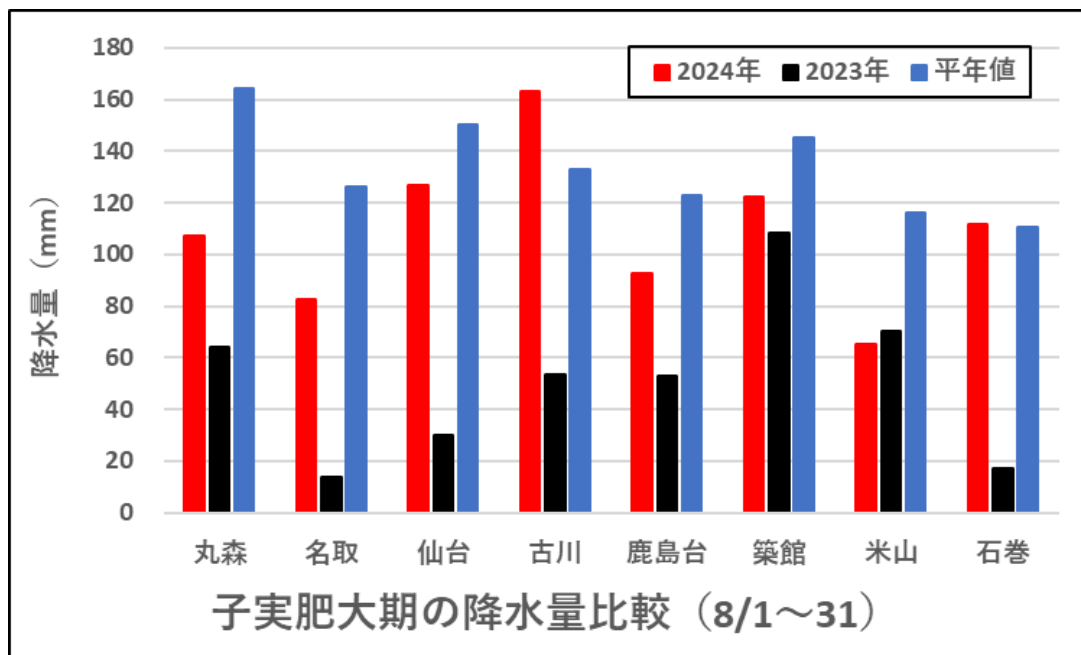


【宮城県古川農業試験場 令和6年度 大豆作況試験 8月9日撮影・8月10日調査】

### 3 今後の管理

#### 1 干害対策

- ・ 本年は高温の影響で、開花期が平年並みからやや早まっている。
- ・ 開花期から子実肥大期にかけては、降水量が少ないと花数が減少し落花・落莢が増加する。晴天が10日以上続くような場合には「畝間灌水」を行って水分を補給する。
- ・ 令和5年産は子実肥大期に当たる8月の降水量が少なく、名取や石巻など仙台湾沿岸地帯では平年の2割程度、丸森や古川など平坦地帯でも平年の5割程度に留まり、大豆の品質が大きく低下した。
- ・ 本年は地域差はあるものの、8月の降水量は平年の5割～平年並みであったため、降水量の不足による品質低下は少ないものと推察される（下図参照）。



#### 2 病害虫の発生予報と対策（宮城県病害虫防除所ホームページより）

◆病害虫防除所が8月26日に発表した「発生予察情報 第8号」によれば、主要病害虫の発生予報と対策は、以下のとおりである。

##### (1) 紫斑病

- ・ 発生量は、「平年並」と予報されている。

##### ◎対策

- ・ 大豆の生育ステージをよく観察し、開花期の20～40日後に1～2回薬剤防除を実施する。
- ・ QoI 剤に対する感受性低下菌の発生が確認されているので、薬剤の効力低下が懸念される場合は、他系統の薬剤使用を検討する。

##### (2) ベと病

- ・ 発生量は、「やや多」と予報されている。

◎対策：発生が著しい場合は、単独防除する。

##### (3) アブラムシ類（ジャガイモヒゲナガアブラムシ）

- ・ 発生量は、「やや少」と予報されている。

◎対策：例年、8月下旬～9月上旬に密度がピークに達するので、多発した場合は薬剤防除を実施する。

(4) フタスジヒメハムシ

・発生量は、「平年並」と予報されている。

◎対策：第2世代成虫の発生盛期（平年：8月下旬～9月上旬）に薬剤防除を実施する。

(5) マメシンクイガ

・発生量は、「少」と予報されている。

◎発蛾最盛期とふ化盛期（8月下旬とその7～10日後の9月上旬）にかけて1～2回薬剤防除を実施する。

●大豆を4年以上連作すると、特に被害が大きくなることが知られている。連作ほ場や前年の発生が多かったほ場では、より効果の高い薬剤を選定する。

◆主要病害虫の具体的な防除方法については、前号（大豆作情報 第3号）を参照する。

(6) その他 タバコガ類（オオタバコガ、ツメクサガ）

・中齢幼虫以上になると葉及び莢を食害し、被害が大きくなるので、早期発見・早期防除に努め、若齢幼虫期に薬剤防除を実施する。

・宮城県病害虫防除所の「発生予報第6号」によれば、オオタバコガの発生量は「多」と予想されている。

・突発的に集中発生することもあるため、ほ場を注意して見回る。

●大豆病害虫の同時防除は、下図を参考にする。

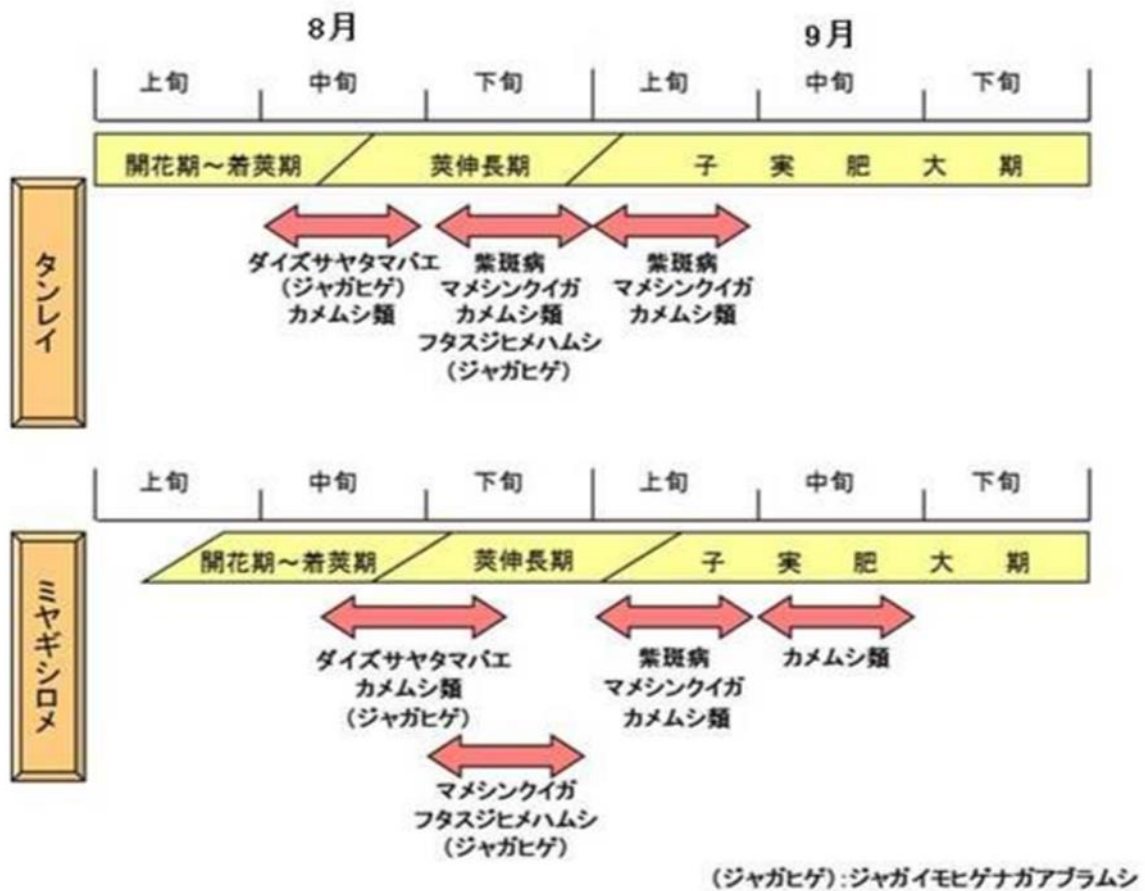


図1 大豆病害虫の同時防除体系図

※ジャガイモヒゲナガアブラムシは密度が高い場合に単独防除を実施する。

※マメシンクイガ、フタスジヒメハムシは品種が異なっても発生時期は変わらない。